

滋賀県支部

地域資源としての「湖南三山」による経済活性化

第1章 湖南市の地勢

第2章 湖南市の地域経済

1次産業：農業の衰退傾向が止まらない。小規模経営を脱した専業農家が若干伸びているが従事人口、経営耕地面積が大幅に減少し、急速に都市化が進行している。2次産業は従業員数、出荷額ともに減少傾向にあったが、平成16年には出荷額が増加に転じた。出荷額の県内シェアは6.8%であり平均以上である。3次産業のうちサービス業は堅調である。小売業については、地元購買者の他地域への流出が目立ち、近隣他市の大型店の増加により、湖南市の小売商業全体への打撃が予想される。

第3章 湖南市民の意識

16歳以上の市民のうち69%が住み心地がよいとし、中学生は41%が好きと答えている。一方、中学生の35%が否定的な回答をしている。また、住みよいまちにするために市民ができること、との設問に対し16歳以上は、住民が互いに協力して地域を美しくする(27%)、自分でできることは自分でするという意識をもって行動する(22%)、市の施策づくりに参画し意見を出す(20%)、地域の問題について話し合い解決する(16%)、困っている人を地域で支え合う(15%)<上位5位>という回答を行っている。これらは、市民が主役のまちづくりの基盤となるものであり、これらの意思を、ネットワークを通じて湖南市の活性化に誘導したい。

第4章 湖南三山と湖南市の観光資源

湖南三山の歴史とその貴重性をあらためて紹介し、併せて旧東海道沿いの名所旧跡と潜在化している観光資源を紹介している。また、観光資源に関する提言として、観光資源の価値創造、観光事業システムの構築、観光資源・観光地経営、市民ボランティア活動、着地型観光事業への展開を述べている。

第5章 湖南市の課題

湖南市総合計画＝基本構想において抽出された課題である、高齢化社会、雇用機会と就労支援、日常生活道路の整備等について述べ、その方向性について簡略に述べている。

第6章 地域活性化のための提言

(1) ハード面からの提言

観光客による波及効果を最大限にするための、観光客への利便性を提供する。これに関連して、①JR草津線の複線化・高速化の推進、②名神高速道路の菩提寺パーキングエリアにETC専用ICの早期設置の推進、③国道1号線新設バイパス沿いに「道の駅」「大型店舗」設置の推進、④国道1号線沿いに「内陸型ハブ物流拠点」誘致の推進、を提案している。

(2) ソフト面からの提言

湖南市民は、市民同士の協力や支え合いなどの市民としての自律性に加え、市の政策づくりに参画するという意見(20%)があるなど、湖南市の基本構想と一致している。これらの市民のネットワークにより、個々の立場からまちづくりに参加してもらい、活性化への裾野としたい。また、湖南市の活性化におけるSWOT分析を行い、当面の構想を示している。